

疾病等により様々な症状が現れているにもかかわらず、まわりの人から「怠け」「気持ちの問題」などと理解を得られず、学校に登校しづらくなる事例が報告されています。

学校に登校しづらいと感じ始めたきっかけのひとつに、「身体の不調」を訴える児童生徒もいることから、配慮のポイントを踏まえ、適切に対応願います。

理解や配慮が必要な疾病

配慮のポイント

- 教職員が各疾病に関する理解を深める。
- 児童生徒に思い当たる症状等がみられた場合には、医療機関への受診を勧める。
- 保護者や主治医と連携して必要な配慮事項を確認し、教職員の共通理解のもと、対応する。
- 本人・保護者の了解を得た上で、他の児童生徒に説明し、理解を求める。

起立性調節障害

キーワード：朝起きられない 体調不良や遅刻の増加

- 自律神経の動きの不調のため、起立時に身体や脳への血流が低下することで、様々な症状が出る。小学生の5%、中学生の約10%に存在するとされている。
- 症状：立ちくらみ、めまい、動悸、朝起き不良、無気力、思考力低下、慢性疲労等
- 対応：学校医やスクールカウンセラーと相談するなどして、医療機関の受診を勧める。規則正しい生活、水分補給、無理のない範囲での運動などを心がける。



脳脊髄液減少症

キーワード：起立性頭痛（起き上がると強くなり、横になると軽くなる）
頭部打撲等の外傷

- 頭部打撲や転倒等により、脳・脊髄を浮かべている「脳脊髄液」が減ることで、次のような症状が出る。
- 症状：起立性頭痛、めまい、ふらつき、全身のだるさ・疲れやすい等、その他様々な症状
- 対応：学校医と相談するなどして、医療機関（脳神経外科、脳神経内科）の受診を勧める。臥床安静（横になる）＋水分補給（1日1～2リットル）が重要。

慢性疲労症候群

キーワード：日常生活が困難なほどの強いだるさ等が続く
休養しても回復しない

- 症状：日常生活が困難なほどの強いだるさ、微熱、リンパ節腫脹、頭痛、睡眠障害などの症状が、6か月以上の長期にわたって続く。
- 対応：思い当たることがないのに上記の症状が続く場合は、学校医と相談するなどして医療機関の受診を勧める。

Topics

一般的に、ニコチン、アルコール、薬物、ギャンブル等、ゲームなどを「やめたくてもやめられない」状態のことを依存症（医学的には「嗜癖（しへき）」）と言います。

平成30年に高等学校学習指導要領が改訂され、科目「保健」の「(1)現代社会と健康」の「(カ)精神疾患の予防と回復」において、「(略)ギャンブル等への過剰な参加は習慣化すると嗜癖行動になる危険性があり、日常生活にも悪影響を及ぼすことに触れるようにする。」と示されていますので、適切な指導をお願いします。

なお、現在、道において、「第2期ギャンブル等依存症対策推進計画」の策定を進めており、指導資料の活用など学校教育における指導の充実が明記される予定です。